

下水道 生きものすべてのいのちのわ

問合せ先/下水道課 (979-8118)

新たな世代へ受け継がれる地球環境を守るために



私たちが暮らす地球では、水資源が日々循環しています。雨が降り、山をつたい、川を経て海へ流れ出ます。その循環の中で、再び雲となり、私たちに恵みの雨をもたらします。

私たちが生活する中で出る汚れた水。それもまた限られた水資源の一部です。汚れた水を浄化し、きれいな水として循環させる役割を担っているのが、下水道施設です。

その仕組みを知り、下水道を理解することは、新たな世代へ受け継がれる地球環境を守るための、1つの手立てになります。

効果を知らう！

○汚れた水が直接川や海に流れなくなることで、川や海の環境を守ります。

○汚れた水が側溝や小川に流れなくなることで、生活環境が良くなり町がきれいになります。

○下水道によって水洗トイレ

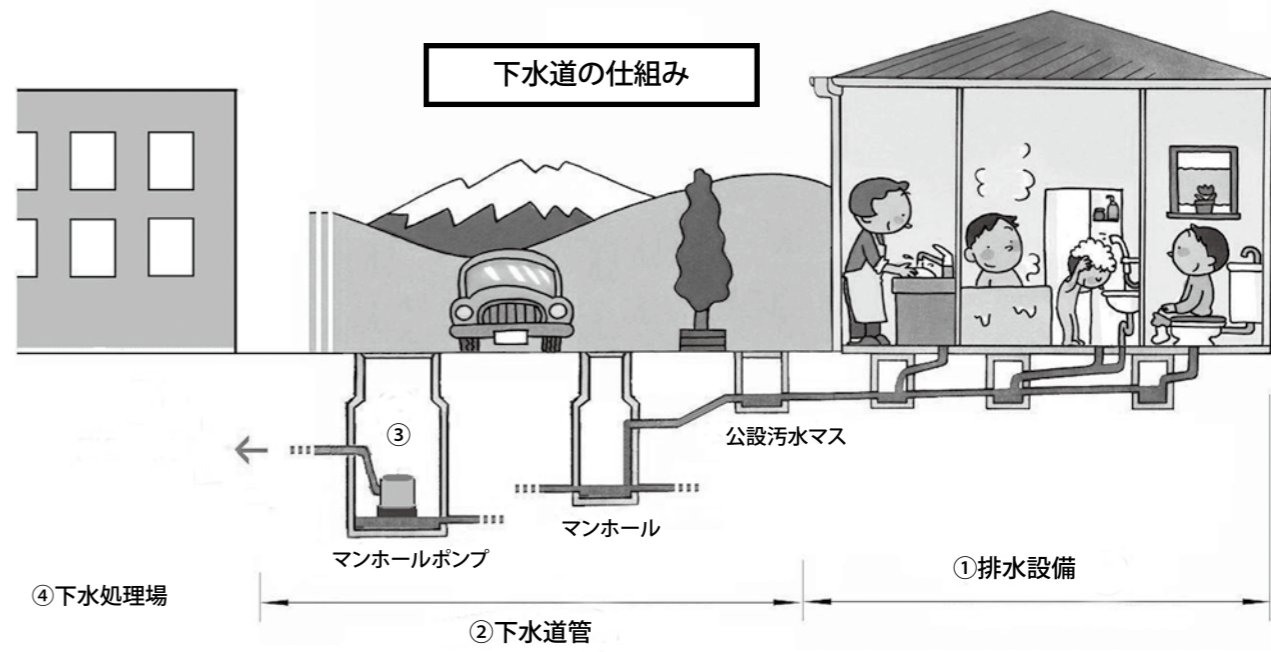
が使えるようになり、衛生的で快適な生活を送れるようになります。

施設を知らう！

排水設備
家庭内の台所、風呂、水洗トイレなどから出る汚れた水（雨水を除く）を、下水道管に送るための設備です。トイレなどの衛生器具、汚水が流れる管、その管の合流点などに設置される宅内マスを併せて排水設備といえます。排水設備が設置され下水道が利用できる状態になると、下水道課の職員がお宅に伺い、その排水設備が法令に適合しているか検査を行います。

下水道管

下水処理場へと通じる施設です。排水設備から送られた汚水は、それぞれのお宅の敷地内に設置された公設汚水マスを通過し、下水道管に流れます。汚水は下水道管の勾配により上流から下流へ流れ



①家庭から出る汚れた水は、排水設備によって公共下水道へ排出されます。②道路の下に埋まっている下水道管により、下水処理場へ運ばれます。③必要に応じて、マンホールポンプにより高いところへ運ばれます。④下水処理場できれいな水に浄化され、川や海に放流されます。

函南町の下水道進行状況

平成23年4月1日現在で、下水道整備区域の全体整備面積786haのうち、414haの整備が完了しています。

平成22年度の下水道整備事業費は15,171万円で、下水道管渠延長1,433m、整備面積4.98haを整備しました。

平成23年度は、事業費17,870万円で、下水道管渠延長1,559m、整備面積3.89haを整備する予定です。

下水道工事が始まると、騒音・振動の発生や、一時的に交通事情が悪くなるなど、工事現場付近の皆さんには大変ご迷惑をお掛けしますが、工事へのご理解とご協力をお願いします。

(自然流下方式)、下水処理場へ到達します。本管の通過点には適宜マンホールが設置され、メンテナンスなどに使用されます。

下水道課では、下水道の整備計画に基づき、下水道管の延長工事を毎年行っています。

マンホールポンプ
汚水が自然流下で流れないときに活躍するのが、マンホールポンプです。町内では、柏谷・平井・肥田・間宮地区など15箇所に設置されています。

通常より大きめのマンホール内に設置されたこのポンプで汚水は低地から高地へと運ばれ、再び自然流下によって流れます。このようにして低い土地の汚水は下水処理場へ送られます。



下水処理場

排水設備、下水道本管、マンホールポンプと長い旅を終えた汚水が最後にたどり着くのが、下水処理場です。函南町で発生した汚水は、狩野川東部浄化センターで微生物の働きによって浄化され、きれいな水になって狩野川に放流されています。

なお、狩野川東部浄化センターでは、函南町のほかに伊豆の国市、伊豆市の汚水も浄化しています。

負担金を知らう！

町では下水道施設の整備や維持管理のため、町民の皆さんに次のような負担金や使用料金の負担をお願いしています。

受益者負担金・分担金

下水道施設整備の工事費用の一部として負担をお願いします。下水道本管が整備された土地に、1㎡当たり一律180円がかかります。

下水道使用料

下水道施設を維持管理するための費用として負担をお願いします。水道の使用量を汚水の排出量とし下水道使用料を算定しています。また、井戸を使用しているご家庭は、人数に応じて汚水の排出量を算出します。

排水設備工事が完了し、下水道が使用できるようになった時点で徴収が開始され、2ヶ月に1度、水道料金と一緒に納入書が郵送されます。

ります。基本的には土地の所有者に負担をお願いします。5年分割で年4回、全20回に分けて納めていただきます。下水道管へ接続できるようになった年度から徴収が開始され、下水道課から毎年6月中旬に納付書が郵送されます。

納期前に負担金・分担金をまとめてお支払いいただくと、納期数に応じて割引を受けられます。

豆知識

地球上の水の量は約14億㎥、そのうち約97%は海水で、残りの3%の淡水のうち70%は南極、北極の水です。私たちの利用できる水は地下水を含めるとわずか0.8%しかありません。

下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

私たちの利用できる水

日本人の手ではじめてつくられたヨーロッパ式の近代下水道は、明治17年(1884年)東京で作られた「神田下水」です。レンガづくりで、現在も一部は昔のまま使われています。

日本最古の下水道

日本最古の下水道は、明治17年(1884年)東京で作られた「神田下水」です。レンガづくりで、現在も一部は昔のまま使われています。